

(3) 校内研修で重視していることはなにか。

(上段人員、下段%)

事 項		小 校			中 校			高 校			
		A	B	C	A	B	C	A	B	C	
ア 研究授業		122	122	115	53	56	54	27	21	28	
		52.1	55.2	54.0	50.0	53.8	52.9	28.7	24.7	30.4	
イ 教科部教材研究		29	29	30	35	37	35	30	20	24	
		12.4	13.1	14.1	33.0	35.6	34.3	31.9	23.5	26.1	
ウ 学年部(学年団)教材研究		32	29	32						3	
		13.7	13.1	15.0						3.3	
エ 個人資料の交換		1			4	1	2	4	13	11	
		0.4			3.8	1.0	2.0	4.3	15.3	12.0	
オ 実技研修		46	38	33	8	6	8	17	14	13	
		19.7	17.2	15.5	7.5	5.8	7.8	18.1	16.5	14.1	
カ 図書室等の活用					1	1	1	12	14	10	
					0.9	1.0	1.0	12.8	16.5	10.9	
キ その他	㉞ 共同研修		2	1	1	2	1		2	1	1
			0.9	0.5	0.5	1.9	1.0		2.1	1.2	1.1
	㉟ 教育機器の導入		1	1	1						
			0.4	0.5	0.5						
	㊱ 文献研究		1	1	1		1	1			
			0.4	0.5	0.5		1.0	1.0			
	㊲ 全体討議の研修					2	1				
						1.9	1.0				
	㊳ 生徒指導					1		1	1		
						0.9		1.0	1.1		
	㊴ 研究発表会								1	2	2
									1.1	2.4	2.2

校内研修で重視していることについて、比率の高い順に2、3をあげると次のようである。

小学校 アーオーウ、イ

中学校 アーイ

高等学校 イ、アーオ、カ

小・中学校においては、「研究授業」の重視が50%以上をしめることになる。次が小学校では「実技研修」であり、中学校では、「教科部教材研究」である。

高等学校においては、「教科部教材研究」と「研究授業」がほぼ同率で、次が「実技研修」である。

以上のようなことは、学校の性格を表わしているように思われるが、小・中学校においては、「図書室等の活用」について、改善・充実を含めて検討を要する問題であろう。

図書室等の改善については、資料センターとしての運営が考えられよう。

その他として、㉞から㊴まで6項目あげられているが、その中でも、「共同研修」と「教育機器の導入」は重視されよう。

教育機器の導入については、学校組織に位置づけ、協力体制での取り扱いが必要になろう。